

O022-P10

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

秩父盆地。多様な地質に寄り添う固有の風土

Chichibu basin. Peculiar climate in which it draws close to various geological features

吉田 健一^{1*}, 宮城 敏¹

Ken-ichi Yoshida^{1*}, Satoshi Miyagi¹

¹ 秩父まるとジオパーク推進協議会

¹ The Chichibu Geopark Promotion Council

秩父地域は、西南日本外帯の東の端に位置し、三波川帯・秩父帯・四万十帯・山中地溝帯を基盤に新第三系・第四系が重なる。中新世の頃、秩父は東に広がる海に覆われ海成層が堆積した。やがて東側が隆起し地下深部の変成岩の山ができ関東平野から隔離された。同じ頃、西方に貫入したマグマは、秩父帯の石灰岩などに接触変成作用を与え、後世、秩父の人々の暮らしを支えることになる。

この盆地という地形が秩父独自の風土を醸成した大きな要因である。

江戸・東京に近いことも秩父に大きな影響を及ぼしている。都市向けの林業・薪炭業が人々の生業となり、鉄・石灰岩・絹が暮らしを支えた。東京からの日帰り圏であるため観光客数は多い。

日本の近代地質学が、最初に秩父をフィールドに選んだのもこのことと無縁ではない。堆積岩・火成岩・変成岩が存在し、古生代・中生代・新生代を示す資料を備えている。地質学の基本要素が観察できるので、研究者・学生にとって良いフィールドである。秩父地方が地質学発祥の地と呼ばれる所以である。

秩父帯中の鉄鉱石や石灰岩は、長い間秩父の人々にとって重要な暮らしの糧だった。現在、秩父は変わり始めている。重厚長大な産業は翳りを見せ、今まで省みられなかったものに光が当たり始めた。羊山丘陵の芝桜・両神の花菖蒲・大滝の氷柱・中津川の紅葉など、秩父の自然が多くの人に癒しを与えている。秩父帯の険しい地形ゆえに生き残ったカエデ、桑や絹を思い出す建物、秩父鉱山の遺跡、地元産の石で作られた石仏群。今では貴重な存在である。NPO 団体も数多く設立され、新たな要望に応える取り組みが随所に展開されている。

ジオパーク推進協議会は、一つの共通方向に向いて動く要として活動している。キャッチフレーズは「めざせジオパーク秩父」である。一市四町や関連団体・NPO は、従来の活動にジオの要素を加えて活動を始めた。ポスター・看板作りにあたっては、秩父ジオパークの特徴をわかりやすく理解してもらうことに配慮した。迷うと「12歳にも分かるもの」という言葉を常に考えた。

- ・ 多様な地質と地形の関係が一目で分かる。
- ・ 地質時代の表記は「約 年前」。「相対年代区分は分かりにくい」に配慮。
- ・ ジオサイトは、安全対策が施された最小限の場所。
- ・ 英語表記も最小限に抑えた。
- ・ ジオパーク認定後も使えるデザインを心がけた。
- ・ 化石の採集できる場所の紹介は避けた。
- ・ ポスターと同じデザインの A4 版を作成。各団体の催し案内を表に印刷し普及を図った。
- ・ 補完解説パンフを作成した。

設立して一年、専門職員の配置、自治体や NPO での研修会、先進ジオパークの行事への参加と視察、パンフレット・ポスター作り、総括看板の設置、古い看板の立替、学校教育活動支援、観察会などが積極的に展開されている。



キーワード: 秩父, 多様な地質, 盆地地形, 地質学発祥の地, 秩父帯

Keywords: Chichibu, various geological features, basin geographical features, the cradle of geology, Chichi belt